



静岡大学アンデス学術調査

著者	土 隆一
雑誌名	静岡大学地学研究報告：地学しずはた
巻	2
号	2
ページ	none-none
発行年	1971-02-15
出版者	静岡大学理学部地学教室
URL	http://doi.org/10.14945/00005788

静岡大学アンデス学術調査

土 隆 一*

1967年6月から約3か月にわたり、静岡大学コロンビア・アンデス学術調査として、コロンビア北部のサンタ・マルタ山群とその周辺の生物相と地形・地質等自然環境の調査がおこなわれた。サンタ・マルタ山群とその周辺の生物相は従来ほとんど知られていないし、特に、サンタ・マルタ山群はアンデス主脈から断層によって孤立した一大山塊であり、かつ、カリブ海に面するその地理的位置から、その付近の生物相がパナマ地峡の地質時代における消長と密接に関係するであろうことが推定される。今回の調査は、そういった変化に富む、この地方の地史と関連づけながら、蝶蛾類を中心に生物相の生いたちを明らかにすることが目的であった。

今回の調査によって採集されたものは蝶蛾類約5,000個体が主であったが、そのほか甲虫類、植生、岩石、化石についても予察的調査がおこなわれた。また、コロンビアのカリブ海沿岸で現生貝類が多数採集された。これらの標本は本学理学部地学教室に保存されてある。

帰国後、コロンビア・アンデス学術調査委員会（委員長：渡辺寧学長〔当時〕）は解散されたが、同時に、静岡大学アンデス研究会が設立され、また、1970年には、総合研究“コロンビア、アンデスとその周辺の生物相と自然環境”の課題のもとに多くの分担者によって標本の整理・同定および研究がつづけられている。これらの研究は、一部はすでに公にされているが、それぞれ結果のまとめり次第発表される予定である。

また、サンタ・マルタ山群を含むコロンビア・アンデス造山帯については、その形成時期がヴェリスカン期かカレドニア期かの議論がなされている。一方従来の研究結果や今回採集された岩石の研究などから考えると、その地質は日本の飛驒変成帯を含む秋吉造山帯に非常に良く似ていると予想されるので秋吉帯と造山史を比較することも興味深い。サンタ・マルタ山群には飛驒地域に比しはるかに広い範囲に片麻岩類が分布しているので、従来日本では良くわからなかった造山帯の深部構造や、造山帯の花こう岩化作用につき新しい基礎的な研究資料が豊富にあることが期待され、日本を含む環太平洋造山帯の起源と形成機構を解明するには絶好のフィールドと考えられる。このような観点から、1967年の第一次の地質調査の予察結果にもとづいて、近く第二次アンデス学術調査をおこなうべく計画をすすめている。

* 静岡大学理学部、第1次静岡大学アンデス学術調査隊長